



## 136期生「3年間のSSH活動をふりかえって」①

136期生(現3年生)に、これまでのSSHの諸活動について、いくつかのテーマで文章を執筆してもらいました。今回は、3年1組から6組までの探究系の皆さんにお願いしました。

### 「1年次の探究活動」

私たちは、特に第二次世界大戦中の郡山市について調べました。夏休みに行ったフィールドワークでは、郡山市歴史資料館を訪れて、実際に館長から話を聞いたり、展示物を見学したりして、当時の郡山市の様子を詳しく知ることが出来ました。私たちは郡山市の歴史を調べていくうちに、ここで空襲があって当時の人々が苦勞したということや、その他にも当時の人々の暮らしや、気持ちなどを想像することが出来ました。そして、調べたことを多くの人に伝えて、これからの未来で戦争をしてはいけないと思ってもらうことで、私たちの調査内容が戦争の抑止力になることを目標として研究をしました。初めての探究活動でしたが、フィールドワークや文献の閲覧を通して、学んだことをうまく活かした発表をしっかりと仕上げることが出来ました。

3年2組 O (須釜中)

### 「2年次の探究を振り返って」

2年次の探究活動ではSDGsで定めている17個のゴールについて、各班でそれぞれ探究内容を考え、問題解決への糸口を担当の先生方の助言をもらいながら模索していきました。1年次の探究の経験があったためか、どの班も概ね自分たちで調べたことや、フィールドワーク等で地域の方々からお聞きしたことを根拠にして問題の解決方法を導き出すことができていたと思います。SDGsは世界中で用いられているものなので、初めは、世界全体に目を向けて、問題について考えていました。しかし、それではあまりにも規模が大きいと思い、1年次の時と同じように、まずは身近なところから問題を考えることにしました。その結果、悩む時もありましたが、問題の解決法を導き出すことが出来ました。班のメンバーと共に協力して、作業していくのはとても楽しかったです。

3年4組 O (本宮一中)



### 「2年次SS探究Ⅱをふりかえって」

2年次でのSS探究Ⅱの活動では、1年次でのSS探究Ⅰに比べて、より具体的な案を考え出すことができたと思う。僕たちは、SDGsのゴール13「気候変動に具体的な対策を」というテーマをもとに探究活動を進めた。僕たちの班では、「気候変動」というテーマは大きすぎるのではないかと考え、その中でも特に地球温暖化について活動を進めることにした。地球温暖化の主な原因は、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出であると考えられており、その温室効果ガスは火力発電などの発電の際にも多く排出されている。そこで、温室効果ガスの排出量を抑えた発電方法、具体的には遊具を用いた発電方法が良いのではないかと考えた。遊具による発電ができれば、実際に発電ができることはもちろん、子供達にも身近なものに感じてもらえるのではないかと考えた。このように、SS探究Ⅱでは、テーマに対する具体的な案を班で考え出したのでよかったと思う。

3年3組 S (三春中)

### 「SDGs達成のためにできること」

皆さんの中で貧困対策のための募金に協力したことがある人は沢山いると思います。ですが、何年も募金活動をしているのになぜこの活動が終わりを告げないのか疑問に思ったことがある人はいませんか？実は貧困の根本的な問題は先進国にあるのです。莫大な資金を送り、負債によってそれより多い額が自国に入ってくるようなシステムを作り上げてしまっているのです。そこで、見返りを求められない支援こそ彼らを助けられる本当の手段であり貧困の連鎖を止められると考え、東日本大震災で活用されたハタチ基金という継続的で返済の要らない支援方法を応用しようと考えました。今私たちにできることは今年行ったポスター発表のような機会を増やすことであり、少しの人が意識を変え、それを見た周りの人も徐々に意識を変えていく、この小さな変化の積み重ねを大事にすることです。これは貧困対策だけに通ずるものではなく、SDGsの達成を目指す安積高校生を含む全ての人が意識するべきものだと、探究活動を通して学ぶことが出来ました。

3年1組 S (日和田中)・ Y (郡山五中)



# 136期生「3年間のSSH活動をふりかえって」②

## 「ポスターセッションを振り返って」

私たちの班は、ポスター発表で、交通渋滞についての発表を行いました。ポスターにまとめる段階で、大変なところは多くありましたが、何とか完成させて発表ができました。人が集まるのか不安でしたが、呼び込みの効果もあってか、ぎゅうぎゅうになるほどとまではいきませんでした。ある程度の人には集まってもらうことができました。発表直前に急遽、ポスターの中身について発表した後に、スマホで撮ったスクリーンショットを別資料として発表を聞いている人に見せ、それを見ながら、自分たちでできることについて意見を述べてもらうというのを決めました。そのため練習が不十分で、緊張もありましたが思ったよりスムーズに発表を行えました。発表の感想には、ポスターの内容に関する肯定的な感想がとても多く、「聞き手が参加するような形もいいと思った」等の感想もあり、ポスター発表をやってよかったと思いました。自分たちで一から考えて研究し、ポスターにまとめて人に発表するという事は今までにやってこなかったため、とてもいい経験になりました。この探究活動で学んだことを今後の生活や学習に活用していきたいと思います。

3年5組 I (明健中)



## 「SSHに関連すること」

「SSHに関連すること」ということで、私たちが二年間で受講してきた探究に関する講演会について、ここでは特に印象に残った二つについて振り返ってみたいと思います。一つは東北大学大学院生命科学研究科の酒井聡樹先生をお招きして開催された、研究そのものについての講演です。主に研究の意義といった本質的なものから適切な発表方法まで、探究を進める上で考慮すべきことを丁寧に公演して頂き、その後の探究における大きな糧となりました。もう一つは一般財団法人Global Academy代表理事の岡本尚也氏をお招きして行った『課題研究メソッド』に関する講演会です。安積高校についての話を絡めながら、全国基準の広い探究活動について貴重なお話をお聞きすることが出来ました。この他にも様々なお話を伺って、数々の大切な経験が出来ました。

～蛇足～

都道府県ごとのSSH指定校が総高校数に対して占める割合というものを調べてみたところ、一番割合が高かったのが福井(4/32 12.5%)、二位が徳島(4/38 10.5%)、三位が鳥取(3/32 9.4%)という事でした。因みに福島は3/104 2.9%で四十位でした。さらに余談ですが人口に対する高校数が一番多いのが島根で、逆に一番少ないのが神奈川のです。参考までに…。

3年6組 U (郡山一中)・ N (郡山一中)

3年間の活動の全体をこのスペースで紹介することは難しいですが、一人ひとりが様々な経験をしてきたのだらうと思いました。次号(9月号)では、3年7組(SSクラス)の生徒に3年間の活動をふりかえってもらう予定です。お楽しみに！

## 今後のSSH関係の行事日程(7～8月)

### 《7月》

- ・ 15日(金) 進路・SSH文化講演会(全学年)
- ・ " 未来の科学技術を担う人材育成のための少人数ゼミ②【脳科学・新規事業開拓】
- ・ 夏季休業中 SS探究I フィールドワーク(1年)
- ・ 17日(日) サイエンスフェスティバル  
in 郡山市ふれあい科学館
- ・ 17日(日) 日本生物学オリンピック
- ・ 18日(祝) 化学グランプリ
- ・ 21日(木) START2022(山形県立東桜学館高等学校 英語プレゼンテーション大会)
- ・ 22日(金) 国際共同課題研究(奈良女子大附属高校・Kamnotvidya Science Academy)
- ・ 23日(土) 国際メンタリング・ワークショップ
- ・ ~25日(月) Joshikai in Fukushima 2022
- ・ 25日(月) 福島の現在と放射線に関する
- ・ ~26日(火) アクティブ・ラーニング型授業

### 《8月》

- ・ 1日(月) アカデミックインターンシップ(2年
- ・ ~22日(月) SSクラス) ※日程は別途連絡する。
- ・ 1日(月) 国際高校生放射線防護ワークショップ
- ・ ~2日(火) (以下、フランス班) 県内研修
- ・ 3日(水) 全国SSH生徒研究発表会 in 神戸
- ・ ~4日(木)
- ・ 3日(水) エッセン交流事業(以下、ドイツ班)
- ・ ~4日(木) 県内研修
- ・ 3日(水) フランス班 飯館村長泥地区見学会
- ・ 3日(水) あすびと福島「福島沿岸部・被災地フィールドスタディ」 [詳細下欄A](#)
- ・ 5日(金) つくばサイエンスツアー(1年希望者)
- ・ 8日(月) 安積高校実験教室(1年希望者)
- ・ ~9日(火)
- ・ 17日(水) KOTOWARI会津サマースクール
- ・ ~21日(日) [詳細下欄B](#)

A 福島県内の5つの高校が南相馬に集い未来を想像する一日を過ごします。本校からは5名募集で、参加条件は特にありません(参加費・昼食・交通費無料)。主な行程: 郡山駅集合 → 福島駅 → 南相馬市 → 福島沿岸部FS → 現地の方との交流 → ドローン操縦体験 → 福島駅 → 郡山駅解散。希望者は職員室の探究班席の担当者まで。なお、先着順とします。

B 福島県奥会津での本質探究の5日間。詳細を右のQRコードから確認し、希望者は各自申し込む。

